令和元年度　西東京市立　明保中学校　学校自己評価表記入用紙

学校教育目標　すすんで学び　心身ともに健康で　思いやりのある人になる

評価の観点　評価は適切に行われている・・・・・・・・・・A
評価はほぼ適切に行われている・・・・・・B
評価はどちらともいえない・・・・・・・・・・・・C
評価はあまり適切に行われていない・・・D

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　・落ち着いた教育環境の中で、一人一人の個性や能力を伸ばすことができる学校

【目指す児童・生徒像】・相互に人権を尊重し、支え合う生徒、人に優しい生徒　主体的に学び、活動に取り組む生徒　自ら考え判断、表現し、メタ認知（振り返り）ができる生徒　目標をもち、取り組むことで達成感を感じられる生徒、自信のもてる生徒

【目指す教師像】　深い愛情をもって生徒の良き「聴き手」となり、支援する教師　一人の人間として一人ひとりの大切さを強く自覚して指導する教師　生徒の実態を把握して、「目指す生徒像」に向けて主体的に経営に参画する教師　高い専門性をもち、創意工夫に満ちた分かりやすい授業に努める教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

・基本的生活習慣は身に付いているが、自主的な学習や活動が十分でない。運動をしている生徒とそうでない生徒の運動に関する関心意欲の差が大きい。

	具体的方策	第　２　回 学校自己評価 努力目標	成果目標	学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	関係者評価コメント
主体的に学び、活動する生徒	市研究奨励校として全教員が主体的な学ぶ工夫をした研究授業を行う。 ※ITC機器を活用した授業についても研究する。	4	3	・ICT機器の活用については本校職員の全員が授業で取り入れることができた。また、授業発表では1，2年の全学級が公開をするなど取組への意欲は高かった。今まで使っていなかった先生の利用が拡大できたことは成果としては大きい。取組では教科の特性を考えた利用がなされており、授業の今後の在り方を考える上で重要な視点になってきている。アンケート「教材やプリントは…理解に役立っている」では数字的には、ほとんど誤差の範囲内であるか、最終的な研究の目的である「主体的な学び」については微増であるが、確実に向上がどの学年も生徒の意識向上が見られ、成果と考える。	A	市の研究奨励校として取り組み、明保中全体でICT機器についても使用活用しています。教員アンケートでは、PRDCAサイクルによる生徒の育成を行うことに取り組んだと回答している先生が増えています。これも学年で統一した指導体制がが確立されている結果だと思います。
	ユニバーサルデザインされた全ての生徒に分かりやすい授業を行う。	4	3	・前期より教員の意識は向上し95％の教員が具体的な工夫を行っている。この成果も生徒のアンケート「先生の説明・話し方はわかりやすいですか」にも現れており、全体としてはっきり分かりやすいで微増であるが、5％程度向上がみられた。学年ごとでは1年生の評価が低く、原因として前期に比べて学習内容が難しくなり、積み重ねが必要な内容になってきたことが原因と考えられる。教科別では7つの教科で分かりやすさが向上している。	A	先生の説明、話し方はわかりやすいですかという生徒への授業アンケートに対しても全体で7割程度の生徒がわかりやすい。前期より教員の意識は向上し、95パーセントの教員が授業においても具体的な工夫を行つている。全学年共通していることですが、授業公開時の先生方の指導は、課題意識を持たせ、適確的な指導が行われていることからもわかります。
	「目指す生徒像」を明確にしたRPDCAサイクルによる生徒の育成を行う。	5	5	・前期より教員の努力も高くなり、見とりでも生徒の実態は理想の生徒像に近づきつつあるようである。特に「どちかというと近づいていない」という回答が全くなくなったことは、教員自身の達成感も1年間の指導を通して得られた見とりとしても自己評価も高くなっていると考える。	A	29年度は、取り組んだ教員のアンケートによると100％と教員の意識は高く、また「目指す生徒像」に関しても87％の教員が近づいていると肯定的な回答であつた。 今年度は、教員の実施は74％、昨年度より低下している。教員の意識の向上と学年ごとの分析と改善策が必要と思われます。教員の努力は授業においても指導面（課題意識）の中で行われています。
	生徒が見通しをもって自らの学習を振り返ることで主体的な学び（取組）になるように工夫する。	5	4	・教員の学習への振り返りの実施率は肯定的な回答は94％と高くなった。これは結果にも比例しており、生徒のアンケートでも86％が肯定的な回答をし、明確に「よく行った」と解答した生徒も半数を超えて51％になっている。また、行事については、ほとんど誤差の範囲内で特に変化はなかった。今後は行事や特別活動において小学校からの「キャリアパスポート」が導入されるのでこの機会を捉えて、振り返りについて生徒へ成長のために継続実施するとともに自己理解を高めていくようにしたい。	A	教員の学習への振り返りの実施率は肯定的な回答は94％と高い。また生徒へのアンケートでも86％と肯定的な回答と明確的によくなつたと回答した生徒も半数を超えている。 今後は行事や特別活動において小学校からの「キャリヤパスポート」が導入されるのを機に充実していくことが望まれる。
思いやりある生徒	ふれあい月間で担任等による教育相談活動を行い、生徒の状況を見取り、生徒との絆をつくる。	5	5	・ほとんど誤差の範囲内で特に変化はないようである。しかし、生徒の満足度を高めていく工夫をしていくことが、生徒との絆やパイプづくりのために重要と考える。また、今後は「やや満足」の理由についても分析して「満足」という生徒を増やしていく必要があるので、今後は分析をしていく。	A	ふれあい月間で担任等による教育相談活動を行つた結果、昨年（1月期）より満足度で81％（1学期は78％、2学期は81％）と略同じである。不満と答えた生徒、時間が足りなかつたいう生徒には個別に担任が聞き取り原因と分析、フオローできたことは良かったですね。
	特別な教科道徳の計画的実施及び指導と評価の工夫をする。	4	3	・教員の道徳への取組は確実に向上が見られる。前期に戸惑いながら実施していた教員も1年間の実施で具体的な実施方法や評価について自信が付いた考えられる。また、道徳地区公開講座では特別な教科道徳についてについては保護者や地域に説明を行った。保護者アンケートでは全体的な数値は微増傾向にあるため今後の継続的な改善とともに保護者等との共通理解すすめていきたい。	A	学習指導要領改訂に伴い、今年度から教科道徳が実施される。教員の道徳への取り組み、特別な教科道徳全面実施に向けた取り組みは向上が見られた。道徳地区公開講座では、教科道徳について保護者や地域に説明会が設けられ、理解が深まった。
オリパラ教育	生徒が体力を積極的に向上できる取り組みを行う。	2	1	・ワールドカップラクビー田中選手は都合がつかずに実現できなかった。いずれにしても取組としては難しかった。数字的には保護者アンケートは前期よりも下がっている。中学校では小学校と違って全校で取り組む「〇〇旬間」といった見える形での体力向上などはないためにこのような評価になっているとも考えられる。今後は委員会活動などで大きく生徒に周知しながら保護者にも伝え、本校の生徒の体力向上策を考えていきたい。	B	オリンピツク・パラリンピツク教育にかかわる講演会（ワールドカップラグビー日本代表：田中史朗さん）はラグビー協会の都合により実施できずに残念でした。 ただ、休み時間の工夫や、保健授業での工夫（必ず走る準備運動、投力が低いこを受けての指導内容の検討をし、ソフトボールを選択）により体力向上の取り組みは評価できる。